

一 西 だ よ り



豊川市立一宮西部小学校通信
令和 8 年 9 月 1 日 第11号
発行 校長 村上謙一

【マラソン大会を子どもたちが創っています】

本校は子どもが意見表明をして、それを実行する学びを大切にしています。学校行事ではマラソン大会の企画を子どもたちに委ねています。



令和 6 年度、職員会議でマラソン大会の見直しを行いました。行事の精選、学習指導要領上の長距離走の扱い、大勢の前で順位付けすることの子どもの心理的負担を考えると、マラソン大会は必ずしもやらなければならないものではありません。一方で本校の児童の体力の状況や運動への取り組み方については、目標に向けて全力で活動する態度の育成に課題がありました。そこで、行事を教師の手から子供の手に戻してはどうかと考え、高学年の児童で実行委員会を組んでマラソン大会の実施または廃止、実施するならばその競技形式までを考えてもらうことにしました。子どもを当事者にしたのです。



子どもは「人生 100 年時代を生きる私たちは体力が必要だ。つらいことから逃げない強い心も必要だ。」として、マラソン大会実施を決めました。また競技形式は「全ての人

が OK と言える、誰一人とに残さないもの」として、リレー競技と、順位を競わない時間走の 2 部門としました。さらにスポーツの 3 要素である「やって楽しむ・見て楽しむ・関わって楽しむ」を大切にして、競技役員としての参加も認めるとしました。

令和 7 年度は「マラソン大会に向けて努力した結果を、真剣勝負で確認したい人もいた。」「役員として参加した人の多くは見ていただけになってしまった。そんなに仕事はなかった。」という反省をふまえ、競技形式は個人の順位をつけるものと、時間走の 2 部門選択制としたうえで、全員がどちらかの部門に参加するものとして開催されました。学校の正式な会議の提案も、実行委員長と副委員長(子どもたち)にしてもらいました。

本校のこの取組を知った和歌山県の小学校の先生方、名古屋の研究者から令和 7 年冬に視察を受けました。マラソン大会等についてのプレゼンテーションは子どもたちにしてもらいました。和歌山県の小学校も行事を子どもの手に委ねることをめざしていて、今年も本校に視察に来られるとのことでした。



過去 2 年間、主体性と当事者意識をもった先輩たちが作り上げたマラソン大会のバトンを、**令和 8 年度**のプロジェクトメンバーが引き継ぎます。(12/1 大会開催予定)

ミッションは「①全ての児童が OK といえるマラソン大会」にすること。多数決による少数派の切り捨てではなく、対話でみんなの合意形成を図る「②民主的な手続き」をとることの 2 つです。

行事は例年通りに「行う」ことが目的化してしまいがちです。子どもたちはマラソン大会開催の目的を、「人生 100 年時代を生きる私たちは体力が必要だ。つらいことから逃げない強い心も必要だ。」と言語化してくれました。できない(やらない)理由を見つけるのは簡単。これからは、どうしたらできるかを考えられる人こそが求められます。